大御當之番

三

浪

内閣文庫
和書
類
號 三二五六九
冊 三九二
一五二函 一六架

内閣文庫
番號 和 32569
冊數 394 (274)
函號 152-21

共六

国立公文書館
National Archives of Japan

元禄元戊辰年十月廿九日　田邊三十九郎ヘ唐昌五尺
　　桐ノ間御番

大御番酒井右京亮組　同番　二百俵　田邊一學事　惟昌

正徳二壬辰年十二月廿四日

　惟昌京大坂の御番ニ当り年参く

　　役　新番　大御番組へ

同年十二月廿六日　御加恩二百俵　都合四百俵

正徳三巳年六月廿一日　於城中御黒書院

　年寄衆六郷服白銀拝領　御暇ニ而上御

　是よりいつも御恩御

正徳三巳年九月廿日　定多好きと　又

より守隠居なりしハ遠縁と存候
享保元申年夏 二之丸城の御番仕
候
享保四亥年秋 大坂城の御番仕候
享保七寅年夏 京の御番仕候
享保八卯年十月廿八日 御番入有之同勤仕
享保十三申年十月廿九日 致仕乃説と云
寛保二戌年二月十五日死 八十四歳

元禄二巳年三月十四日
大御番酒井右京亮組 青木五右衛門義和二男也 桐之間御番 二百俵 後四百俵 青木伝右衛門義方 後ハ伝右衛門
義方事分家の節其家ハ兄え寄る
元禄三午年八月廿五日 加増四百俵 是より前の
二百俵ハ返上する
元禄十六未年七月廿五日死 四十四歳

元禄二巳年五月十八日

貞享元子年七月十二日継目

江原源左衛門金政養子
小普請仙石因幡守組

大御番酒井右京亮組 二百石 江原平七郎秀隆
改 平右衛門

元禄十六未年十月十九日大御番組頭

秀隆京大坂の當番に八ヶ年詰候

同年十二月廿三日御加恩二百石 凡四百石

宝永元申年十二月十五日二条城の當番に

其上御暇白銀拾枚時服二ッ被下之より

前之付恩賜被下之

宝永四亥年秋 大坂城の結番之節

宝永七寅年夏二条城の定番に参り
正徳三巳年秋右城の続番に参り
享保元申年十一月二条城の加番に参り
享保四亥年二月十八日辞入大久保隠岐守組
同年三月廿六日死

元禄二巳年五月十八日
貞享元子年十二月廿二日跡目
大御番酒井右京亮組
豊後市兵衛惣領
中奥番石川備中守組
三百石
内百俵　豊後市平嘉兵衛
改 佐兵衛
元禄四未年九月二日　桐之間御番
同年十二月廿二日御加恩百俵都合三百石
元禄七戌年七月廿七日　新御番組頭
御番頭組子入

元禄二己巳年五月廿八日

貞享三丙寅年十二月十日御目見

大御番酒井右京亮組　三百俵　伊丹市郎左衛門勝雄

伊丹市郎左衛門勝知嫡子
小普請[illegible]守組

改　源篤

勝雄京坂の両城にて勤番十ヶ年
相勤

元禄九丙子年十二月廿三日　下ニ廿ヶ間宿直
よゝ乃勢あるをいとして萬石之掟を偏る
元禄十二己卯年九月十日御赦ひとして
同三年丙戌を偏る

正徳元辛卯年七月廿六日　拝入大久保隠岐守組

享保四己亥年十月二日為松平帯刀養子
享保十五戌年十二月二日致仕 号茱山と云
元文四未年正月十三日死 七十四歳

元禄二己巳年正月十八日
貞享四丁卯年七月十二日生
大番酒井右京亮組 二百石 伏見金右衛門京朝
伏見七左衛門京隆養子
実ハ書院番酒井修理亮組

京朝ハ実ハ同性助左衛門京治ヵ
二男なりしか両親亡ぬしかハ
伯父の京隆ヵ預ヶ置て養嗣と
なり年僅百五俵を収しまヽ
京隆ヵ跡を嗣て故有大番に
入る
同年秋坂城の結番より

元禄五申年七月廿六日死 三十九歳

元禄二巳年正月廿八日

元禄元辰年十月十二日跡目

大番酒井右京亮組

加藤山城守支配

小普請酒井飛騨守組

二百俵 加藤右馬 西富

西富京大坂の宿ニて子年々度々

享保五子年七月養入 永井言内之死

享保十三申年十月九日致仕

元文元辰年九月廿二日死

元禄三午年二月廿六日

佐久間八郎左衛門信則忠死
小普請仙石因幡守組

跡目

大御番酒井右京亮組 三百俵 佐久間平左衛門信編

信編弟大坂の役ニ而より年々奉公く

元禄十五午年十二月四日 番入 久貝因幡守組

宝永四亥年十一月廿七日死

元禄四辛未年十二月二日

大御番酒井右京亮組　二百俵　山下岩之助元道

實ハ兄者之後養父元禄四未養子

後 源兵衛

元禄五壬申年正月廿二日家督二百俵を續る

同年八月廿日 父失ぬさるしゆゑ所乃

料同しく下され遠藤と称

元禄五壬申年十二月　日 御番入 彦坂壱岐守組

元禄十一戊寅年十月十一日死 三十四歳

元禄四未年十二月二日
大坂御破損奉行織田主馬信輝嫡子
大御番酒井右京亮組 二百俵 織田伊十郎信茂
元禄五申年四月十三日 廩米二百俵と
備へ
信茂家督之節の願書ニ無之事故く
正徳五未年 十二月十二日
依部屋 元方御納戸

元禄四未年十二月二日

大御番酒井右京亮組　二百俵　坂部市助正香

御幕奉行坂部市之丞正勝嫡子

改　三左衛門

元禄五申年四月廿三日廩米二百俵之高を
正香二而大坂の定番ニハ奉ヶ年務く

宝永五子年十二月十九日　祖父　寄合入ニ而役掛ら組

享保二酉年四月二日孫同四右衛門迄之
二百俵ハ返し勤る

享保八卯年十二月廿日表二番町の邸
替地かりるも見の後年　二月廿三日

尼善ヲ居遊ヨリ止ニ至ルマテ

今嫡子ニ家督ヲ賜ル

享保十二未年六月十四日死年八十歳

元禄四未年十二月二日

大御番酒井右京亮組 二百俵 柳原吉之丞長清

御具足奉行柳原小兵衛長行惣領

改 九郎兵衛 惣兵衛 小左衛門

元禄七甲戌年二月十一日廪米二百俵ヲ賜リ

長清か大坂の宿直に参り

元禄十五午年五月廿五日 従新番 御腰物奉行

元禄四未年十二月二日

大御番酒井右京亮組　百俵　小笠原喜太郎重

御徒組頭小笠原七郎右衛門七兵衛重辰

改　久左衛門

元禄五申年四月廿八日　廩米二百俵と成

同年亥　二条城の定番被仰付

元禄八亥年秋　大坂城の加番被仰付

元禄九子年十二月廿日　右之通同定番被

仰付候ニ付　御役御免と成

元禄十五午年三月十八日　御役　新御番中根平十郎組

元禄四未年十二月二日

中入組沢宅間孝次郎憲連惣領

大御番酒井右京亮組 二百俵 宅間権三郎憲喜

後三百俵

元禄六酉年十二月廿三日病氣二百俵と

備ノ

憲喜弟大坂の家来之ゟ参り事ニ付く

元禄八亥年十月十日跡目二百俵完返の

二百俵かへしける

享保十七子年十二月廿六日死六十二歳

元禄五申年 三月十八日

元禄元辰年七月廿三日跡目

大御番酒井右京亮組

小笠原金三郎忠仍惣領

桐之間御番

四百俵 小笠原孫六郎広雄

後金三郎

広雄事大坂の御番相勤候處

元禄九乙亥年秋坂城の定番ニ而参り候砌

元禄十丁丑年五月大坂より御暇ニ而罷越

同年四月江戸表へ参り罷在候

六月三日晋年ニ而江戸ニ而御暇被仰付

又坂城江参り候御番仕

宝永四亥年十二月十三日寄合ニ入同月御役御免被仰付

享保三戌年三月十六日 御先大御番酒井
下総守組江御番入

元禄六酉年八月六日
大御番酒井右京亮組江 長崎伊七郎跡式

長崎奉行本多家忠氏
小普請信直行
御番

宝永元申年五月二日大御番組頭
跡式家督之節三百俵之外ニ年寄
同年十二月廿八日於城之席ニ御番衆之
御服白銀拾枚時服二ツ被下候のちも
御恩賜候
宝永七寅年二条城之儀被仰付
正徳二辰年七月廿二日御入松平ニ組

享保己亥年八月二日居内夜家女子ニテ死
享保八卯年四月十四日死六十七歳

元禄六酉年八月十二日
貞享三寅年十二月十日済同
大御番酒井右京亮組　清野権左衛門貞長張養子
桐之間御番
二百俵　清野権左衛門貞長

元禄十二卯年八月十五日死
貞長ニ而大坂の定番ニテ在番ニテ死

元禄六酉年十二月九日

中奥御小性之内ゟ牧野備後守殿願

大御番酒井右京亮組　二百俵　宇都野宇右衛門遺

後　源左衛門

元禄七戌年五月廿九日　廩米二百俵を賜る

元禄八亥年秋　招職の役儀を賜る

元禄十丑年三月十八日　従御番　新御番牧野[illegible]三郎組

元禄六酉年十二月九日

新御番川勝権之助組平右衛門吉親惣領

大御番酒井右京亮組 二百俵 佐橋平市郎佳認

後二百五十俵 歿 十九

十五歳

元禄七戌年四月廿九日廩米二百俵を賜ふ

佳認ハ大坂の定番より来る事なく

宝永元申年六月十九日跡目二百五十俵是

までの二百俵ハ返し下さる

宝永二酉年七月廿五日新御番竹本土佐守組

元禄六酉年十二月九日
新御番酒井左馬助組三左衛門惣領
大御番酒井右京亮組　二百俵　大田権八郎正貫
改　加之助
元禄七戌年正月廿九日　病死　二百俵を
継ク
西丸ゟ京大坂の御金奉行ニ転ス
元禄十六未年三月九日
任勘定　林方御納戸

元禄六酉年十二月九日

大御番酒井右京亮組 二百俵 伊藤彦兵衛 治昌

元禄六年御番ニ付伊藤七郎兵衛惣領子

改忠兵衛

新番組頭

元禄七戌年四月廿九日 廩米二百俵を

賜ル

元禄八亥年秋 加増の命ニて来ル

元禄十一寅年十二月二十蔵の分を賜ニて来ル

元禄十四巳年四月十二日 依病免 元禄御納戸

元禄六酉年十二月九日

大御番本郷長門守組ゟ右組江番替

大御番酒井石見守組　三百俵　横地半市資篤

元禄七戌年十二月廿九日廩米三百俵被下候

資篤事大坂の番ニ付毎年三度

元禄十六未年三月九日　依病気　持方御預ケ

元禄六酉年十二月九日

大御番酒井右京亮組　二百俵　夷濃部頼母（権之助　惣氏）

元禄七戌年二月廿九日廩米二百俵ヲ賜る

元禄六酉年十二月九日

大御番酒井右京亮組 二百俵 廣田主税安清

大御番本多肥後守組[illegible]右馬[illegible]安議惣領

後ニ四百石

元禄七戌年正月廿九日廩米二百俵を賜る

安清家父[illegible]板の家督[illegible]より[illegible]年下され[illegible]

元禄十四巳年十二月十八日[illegible]四百石是よりの

二百俵ハ返上する

元禄十二卯年九月十二日御[illegible]金奉行を勤る

元禄十六未年十二月四日此度の地方[illegible]俵にて

増[illegible]と命せらる[illegible]明の申年正月晦日

免さる
宝永三丙戌年六月廿三日小普請方
同日二十口を賜る
宝永四丁亥年三月十日駿府御破損奉行
御殿奉行御林奉行兼御役扶持
二十口を賜る
同年四月廿八日御服黄金一枚時服二を賜
駿府城御門脇にて八百坪の地を
賜ひ家舎を造るべき料金二百両
材木二千本を賜る
宝永七庚寅年三月廿二日職のぞく免さる
四月二日江戸より来りて西岸周防守

支配とあり
享保四己亥年八月二日舊伊丹兵庫康勝支配
享保九甲辰年十月九日 但元大御番酒井下總守
組に復す

元禄六癸酉年十二月九日

大御番酒井右京亮組　大御番戸田采女正組ゟ□元脇差所

二百俵　大野甚右衛門元智

後二百石　改十右衛門

元禄七甲戌年正月廿九日廩米二百俵を

賜り

元智元禄十五年の跡廩米ヲ年々下さる

享保七壬寅年八月二日蔵米二百石是を乃

二百俵ハ返し奉る

享保十七壬子年十月十二日[illegible]入福[illegible]死

元文元丙辰年十月廿四日[illegible]

元禄六酉年十二月九日

右御書酒井右京亮殿

右御書ニ被成候由ニ而右京亮殿親清書候

二百俵 石橋傳八郎親定

元禄七戌年四月廿九日 [illegible]右京二百俵ニ而被仰付

親定 [illegible]の[illegible]

元禄十四巳年四月十二日 [illegible] 御[illegible]方御納戸

元禄六酉年十二月九日

大御番酒井右京亮組　三百俵　彦田長十郎久正

大御番三枝摂津守組甚右衛門久倍惣領

父　利義　三左衛門

元禄七戌年正月廿九日廣敷番三百俵之備ル

久正之弟大坂の御番ニ備ルより弟ニ年若ク

宝永元申年夏之弟大坂の御番ニ備ルより弟ニに

狂気候ニ付て相番二人に疵を付させしかハ

宝永元申年五月廿七日　於本庄　松浦大膳ニ御預

宝永三戌年二月八日死罪ニ処

元禄六酉年十二月九日

大御番酒井右京亮組 二百俵 足立又市郎遠重

大御番本多淡路守組若市郎遠清養子

後 佐次兵衛

元禄七戌年十月廿九日廩米二百俵之帳ニ

遠重拾城の諸帳ニ年々年書改

元禄八亥年三月廿三日父名めもし諸ふ

所の科同しくもの八遺跡と不相

元禄十五午年五月廿一日 元方御納戸

元禄六酉年十二月九日
御書院ノ加藤書之丞加藤主殿助光政惣領
大御番一番東條出羽守組加藤主膳光信惣領
大御番酒井右京亮組　二百俵　加藤吉之助光平
改　忠四郎

元禄七戌年十二月廿九日養父永二百俵ヲ譲リ
光平ニ京大坂の縁ニ属シ候ニ付年ノ事罷免

元禄十二卯年三月九日
従部屋　元方御納戸

元禄七戌年六月廿九日

延宝七未年十二月十六日家督補御詰 天和元酉年桐之間御番 吉同九年御右筆 信利二男

大御番酒井右京亮組 百五十俵 夏同九年右筆遂之 後二百俵

同年十二月廿三日百俵を加へられ

凡三百俵

元禄八亥年秋坂城の張番より来了

元禄十一寅年二月辞入水野長門守組

宝永七寅年十二月廿九日死四十四歳

元禄七甲戌年閏五月九日

元禄五壬申年九月廿日従執政之
寺社奉行ニ而

大番頭酒井右京亮殿

元禄道奉行ニ而

大久保伊賀守忠信支配
小普請大久保出雲守支配

三百俵　大久保新之丞忠増
後改名右

忠増事大坂の御番衆中弟之事故ニ
元禄十三年十二月廿八日御目見之是迄の
三百俵ハ返し差上る

享保二丁酉年六月廿八日　道奉行

享保五庚子年九月廿七日　道奉行ニと
上ミもらく
但元大御番酒井下総守組ニ而御番

元禄七戌年六月廿六日

元禄元辰年七月九日家督

肥田彦左衛門政忠庶

桐之間御番

大御番酒井右京亮組　二百五十俵　肥田与左衛門正照

正照ハ弟大坂の与左衛門弟之事ニ候く

享保六丑年十二月廿二日死

元禄七戌年十二月廿二日

貞享元子年十一月十二日跡目千百廿五石余　村上彦右衛門正忠所

内源之丞義致江三百石分知　桐之間御番

大御番酒井右京亮組　千百廿五石余　村上彦右衛門義忠

元禄九子年九月十日　新御番伊沢右京亮組

元禄九子年九月晦日

元禄元辰年十二月廿三日加増三百俵　金田市左衛門房輝次男
元禄七戌年五月廿八日桐之間番入　御小納戸

大御番酒井右京亮組　三百俵　金田中務房長

房長事大坂の御陣に御供仕手柄有
寛永元甲子年四月二条城の御番仰付られ
四月廿七日二条城の御番せしめ候処
おゐて富田三左衛門と云者俄に狂気
致し白刃をふるひしかに小野房長
富田をいたき止め候て面々あまたの
疵をうけしかとも川ちかに但馬守

享保九辰年十二月十五日 新見備中守拝領地

手中へと書記すや中富田八松浦左膳よ
頼みに入時西白病を請し事ありて三年
経てし房長新見備中を替し時
有徳廟に事を尋ねありて其時乃儀を
感し思召の便なと替へしつかふ御用にて備中守義
の跡に命せらるゝ事しきさ事ハ 新見備中守義
三のり 享保九辰年房長の儀にありて合せなるへし

元禄十二卯年十二月廿七日

大御番酒井右京亮組 二百俵 森七左衛門定政

桂昌院様御廣敷番之頭森孫右衛門養子実ハ書出兆

後三百石

同日廣敷番二百俵を賜り

定政元来大坂の定番より来る事なく

正徳三巳年十二月廿九日家督三百石となり

二百俵ハ返しまゐらする

享保六丑年九月十三日麻布谷町にて

三百三十二坪の地を賜る

享保八卯年三月廿日改二番堀左書死罪十二家

定政ヵ體ヲ葬ル所ヲ不知

元禄八乙亥年五月九日

元禄元戊辰年十二月十日歸府

大御番酒井右京亮組　實父松平右衛門定長養子　出雲守信松平三五郎組　留守居　大番頭　定則

定則事故の富土に參る事度々

享保十六辛亥年十二月朔日死去年八十歳

元禄十二己年六月九日

延宝三卯年七月十一日御目見

宮崎清左衛門支配

小普請松平主水組

大御番酒井右京亮組 二百二十五石 宮崎助作泰之

改 清三郎

宝永二酉年

泰之事壮年の頃より病ニ依て

六月廿八日 釈入 井戸対馬守組

宝永元申年 仏道ニ志し 鎌ヶ橋の

元禄年中より 病身の為ニ不

なるとて 采地二百二十五石を奉り

され 七日を生涯の内 鍛冶(?)別

吉祥寺村ニ 隠居し

正徳二辰年四月廿二日死

元禄十四巳年五月九日

元禄二巳年七月十日御目

大御番酒井右京亮組　二百俵　佐橋源五郎佳弥

佐橋又左衛門佳勝惣領
小普請松平主計組

佳弥事大坂の品有之ニ付手前差扣く

享保元申年二月二日飯田権太郎ゟ上ヶ地

四ッ谷天竜寺谷町居屋敷の地を賜る

元文五申年四月廿七日大御番組入

同年二月十六日二条城の御番ニて参着ニ付

御暇白銀拝領時服二ツ賜り是より

以後も御恩賜り候事

寛保三癸亥年秋坂城の請番にて参り
延享元甲子年春二条城の勤番にて
参りしに病にかかり
延享三丙寅年十月廿二日於二条城卒去 行年七十二 二条
住部ヶ嶺と二条鞘屋町大宮西へ入
町成円寺に送る

元禄十四巳年五月九日
元禄十三辰年十二月廿二日御目見
大御番酒井右京亮組 二百五十俵 野口内匠助義種
野口長左衛門養惣領
小普請水野長門守組
後 喜左衛門
義種系大坂の加番にて参り一年務く
享保八卯年三月廿二日 十ヶ年之間加番之
上の勤めあまりにて黄金一枚を賜る
享保十四酉年閏九月二日大御番頭組
享保十八丑年十二月廿八日坂城の請番にて
参りし御時白銀拾枚時服二を賜り
同後も御恩賜り

享保十九寅年夏二条城の宮番に参る
元文二巳年秋坂城の法傳に参る
元文五申年夏京都の護傳に参る
寛保三亥年閏四月廿二日尋入小普請組支配
延享二丑年七月十九日致仕
宝暦三酉年八月十七日死七十六歳

元禄十四巳年五月九日
元禄十五年七月廿一日跡目
天野伝右衛門自房嫡男
小普請 水野長門守組
大御番酒井石見守組 二百石 天野又五郎自豊
自豊京大坂の宮番に参る年番[illegible]
寛保二戌年四月十一日大御番組頭
寛保三亥年七月朔日坂城の宮番に
参る六 御服白銀 時服二 賜る
是より後も 恩賜あり
延享三寅年夏二条城の宮番に参る
寛延元辰年十二月十九日尋入[illegible]七十[illegible]歳死

寛延二己巳年七月廿七日致仕 整ヶ之制ヲ立て
閑冷しと云
宝暦六丙子年四月廿九日死 七十六歳

元禄七甲戌年六月九日
貞享元甲子年七月 日 譜
母 酒井右京亮組 二百石 石原六郎左衛門政雅
石原太郎左衛門在寄之娘
小普請 水野長門守組
享保二丁酉年八月二日 浦賀奉行
兼へき作と云
享保十五庚戌年六月十三日死

元禄十四巳年　六月九日

貞享三丙寅年七月十日隠居

小笠原久左衛門西丸[illegible]

小普請信太久保[illegible]組

大御番酒井右京亮組　二百俵　小笠原百[illegible]西信

改　次郎右衛門

西信三男[illegible]坂の[illegible]

享保九辰年　六月十四日死

元禄十四巳年六月九日

元禄四未年　月　日跡目

大御番酒井右京亮組　三百俵　大沢権六郎　養子

大沢権六郎養娘聟実子
小普請信村織部伊勢守組

基行東大坂の節病身ニ付年々二十度

宝永年中　寄合入　大久保淡路守組

宝永六丑年七月三日死

元禄十四巳年六月九日

元禄十五午年十二月十日隠居

大御番酒井右京亮組　三百俵　本年十七歳ニ而満郷惣領　小普請吉田丹後守組　酒井長三郎満義
改　三右衛門

満義二而大坂の跡ニ而年々年忍く

享保元申年六月廿二日死

元禄十六未年十二月晦日

元禄十六未年七月廿二日跡目

大御番戸田土佐守組　佐野彦右衛門政時惣領
小普請[illegible]備中守組
五百石　佐野源左衛門政長

政長事大坂の宿直にて無事年久く

元文二巳年六月七日老衰隠居之令ニ抜入杉本源理と死

寛保元酉年七月廿日致仕生討しとい

延享元子年十二月晦日死七十五歳

元禄十六未年十二月晦日

元禄二巳年十二月十九日跡目

小出猪左衛門勝常惣領
書院近藤備中守組

大御番戸田土佐守組　二百俵　小出伊左衛門勝縄

勝縄事大坂の御番ニ年々年久く

享保四亥年四月七日大御番組入

同日百俵を加へ給ひ凡四百俵

同年二月廿八日坂城の諸番ニ付年来六
御服白銀対時服二を賜る此後も
又恩賜有之

享保七寅年大坂二条城の御番ニ付而

享保十巳年秋於城の法事に参る
享保十三申年夏二之丸殿の宴事に参る
享保十六亥年秋於城の法事に参る
享保十九寅年夏京都の法事に参る
元文二巳年秋於城の宴事に参る
元文五申年四月十二日西城御先抱队
同年十二月廿五日布衣を免さる
延享二丑年九月朔日
大御所様に属せらる
宝暦元未年七月十二日
大納言様に属せらる
宝暦二申年六月十四日

有徳廟の遊覧を務めしに労ありとて
時服三を賜ふ
宝暦三酉年六月十二日御持弓頭
宝暦九卯年十二月二日老齢寄合に列す
宝暦十二午年五月十二日致仕
明和元申年九月廿七日死

元禄十六未年十二月四日

元禄十六未年六月廿日済口

大御番戸田左衛門組

多門平九郎弟西吉養子

小普請大久保主膳組

四百俵 多門市郎左衛門親兼

内二百俵

改百五郎

親兼 亥年大坂の御番中多年勤病く

元文五申年二月十日老辞隠居今は改入永井隠居之死

寛保二壬戌年六月廿七日死

元禄十六未年十二月晦日

青木伝蔵儀養子
小普請石河周防守組

元禄十六未年九月廿七日跡目

大御番戸田右作守組罷在　青木三郎八　当高

改　甚四郎
伝蔵

当高弐百俵の外御役料年〻

正徳元卯年十月廿一日大坂御金奉行

同年十二月金五拾両を借賜る

正徳二辰年十二月十五日御暇　黄金一枚

時服二を賜る

享保四亥年四月朔日京より来りて

拝謁し御前にて之を賜ふ

同年同月廿九日御暇寒入金一枚時服二を賜る

元文三午年四月廿一日西條御表御用書の訳
同年十二月十八日右御用を免さる
延享二丑年十月廿八日御先純訳
寛延二己年三月十三日
大納言様御時人留の事与力
不念ありしに依て同月十五日差控へ
うち御役を止められ四月十八日免さる
宝暦二申年十二月十二日寄合永井
豊前守の御切米の御書下知や
まりて饒失せし事によりて
御書を改めを命ぜられ同月
廿二日免さる
宝暦二申年十二月廿日死七十六歳

元禄十六未年十二月四日

今篠山甚右衛門嫡男
小普請井戸對馬守組

元禄十六未年七月十二日分知

大御番戸田土佐守組　三百石　今篠山傳右衛門資容

資容二番大坂の寓居にて卒す年六十六

享保九辰年十二月九日新御番宮崎七郎右衛門組

元禄十六癸未年十二月晦日

浅井中務元政惣領

元禄七戌年七月十二日誕生

小普請松平主計頭組

大御番戸田土佐守組　二百俵　浅井玄蕃　元雅

元雅京大坂の宿直に参る事許さる

享保元申年三月二日ゆるさる所部与年六

十郎四ケ谷内藤宿松平内膳正の上ケ地乃

うち三百七十七坪を賜る

享保五子年十二月廿三日　稼入　安房主膳女　死

享保六丑年十二月十二日　致仕

元文四未年　正月三日　死　五十七歳

宝永四亥年七月廿日

元禄十六未年十二月十八日家督

大御番戸田土佐守組

松波十右衛門勝令養子

実者松平主計頭組

六百石　松波十右衛門勝正

改　五郎右衛門

勝正儀大坂の定番与力年寄勤候

享保七寅年十二月廿七日　十七ヶ年之間定番之

よく勤めたるによって黄金五枚を賜る

享保十五戌年十二月廿三日　二条御門番となる

同日現米百五十石の御役料を賜る

多年十余年同心二十人を預けらる

同年十月朔日御服黄金五枚に時服二

羽蔵と號す
寛保三亥年三月十五日家督となり
廿日宴に来り四月朔日浄瑠璃し
奥口を献見云后病ひにて終よ
寛保三亥年九月廿日出家免されて
為松下加三衛門死
延享元子年八月三日致仕
延享三寅年六月廿二日死七十三歳

宝永四亥年四月七日
元禄十二卯年七月九日於桜田誕生
大番戸田土佐守組 元桜田御殿 三百五十俵 浅井金四郎政朗
浅井弥右衛門朝政養子
実者岩崎松平三郎組
政朗京大坂の宮番にて参る事十三度
延享三寅年四月三日寄合入永井監物支配
宝暦二申年八月十七日死七十六歳

宝永四亥年四月七日
宝永二酉年十一月廿三日家督
大御番戸田左衛門組

井出五左衛門正徳三男
小普請松平主計頭組

二百石 井出源五郎正栄

同年秋始城の留守居より家督として明乃
宝永四亥年四月先年御代官勤し
井出治左衛門正基存生の内の事御不審の
筋これ有るに付御代官の内の不埒の事にありて
致候ニ付同四月三日不届にて御糺明有之
同月廿日治左衛門正基ヶ所へ金上納させ
られ候よし致候

宝永四丁亥年閏正月廿一日小普請入 松平主殿頭組
同月亀戸小屋被仰付
享保四己亥年六月十三日 評定所ニ而
百姓共[illegible]存之旨[illegible]
上納ニ不及候旨被仰付
享保九甲辰年八月廿三日 甲府勤番支配有馬
出羽守支配被仰付
同年九月廿八日御暇被仰付[illegible]
享保十七壬子年十二月九日於甲府死 六十九歳

宝永四丁亥年四月廿七日
宝永三丙戌年七月廿七日跡目
大御番戸田土佐守組
山角権之助正勝二男 母某氏
書院 松平主殿頭組
二百俵 山角四郎兵衛定方
定方妻大坂の[illegible]ニ[illegible]年
病ニ[illegible]
元文四己未年六月廿九日死 六十四歳

宝永四亥年四月七日

元禄九子年九月朔日元允御書出之

大御番戸田土佐守組　三百石　守能右兵衛安明

守能行右衛門次明惣領
小普請組井戸対馬守組

安明ハ伯父守能平兵衛芳明か養
芳明死後

桂昌院殿ヘ召されて老女となりし瀬川と
召さる安明ハ養子と成りて京極
若狭守高成の方に仕へしが去る
元禄九子年九月朔日
将軍家に召されて廩米百俵を下さると

賜り三の丸御屋敷借宅となさる
元禄十二卯年十月廿日三の丸御屋敷
宅の跡とあり百五十俵を加へられ
凡二百五十俵となる同十五年十二月
七日百五十俵を加へられ凡二百俵と成
宝永元申年正月廿五日に父御加恩
二百石凡五百石となり其後一統
免されて小普請となりて終る
此度大河書に列す

正徳二辰年四月廿五日御鉄炮玉薬奉行
要明家大坂の殿吉備に来り
享保四亥年武州中野村にて
御鉄炮合薬調合の時古き合薬
番生しけるに旧の内より火出合薬へ
火うつり調合場の小屋焼失せしに
よりて十二月廿五日籠居せしめし
免許わ明の子年正月十六日免さる
享保十乙年御鉄炮の御用きりうる
御入用不吟味ありしとて九月十二日
籠居せしめしに免許わ十二月二日免る
さる

享保二十卯年十二月十七日死 七十一歳

宝永四亥年四月七日

元禄十六未年七月十七日家督

大御番戸田美作守組

久世平四郎実子惣領

小普請[illegible]井左[illegible]対馬守組

三百俵　久世平三郎定誼

父　平四郎

伊三勝

同年秋坂城の修復所々損し

所ぶ渉る

宝永七寅年夏二条城の修復所々損し

所割くと勢免

正徳三巳年秋坂城の修復所々損し

同年十二月十二日本丸和泉橋の御修復ぶ

かゝる

正徳四午年秋番人として坂城ニ参て
読書す
同年十月廿日備後福山の邸教授となる
享保元申年正月十一日同所備後の邸
教授となる
同年夏二条城勤番の時請て務免
享保四亥年二月廿四日下谷の邸教授となる
同年秋坂城の読書ニ参る
享保五子年冬番人として坂城ニ
参りて読書す
享保六丑年三月三日下谷の邸教授となる
享保七寅年夏二条城の定番ニて参り

享保十巳年秋坂城の読書ニ参る
享保十三申年夏二条城の勤番ニ小八病ひ
なりて同年冬止まる
享保十三申年十月廿四日辞入建部氏殿中補ニ死
同年十二月廿六日致仕一法と云
享保十五戌年九月廿六日死七十四歳

宝永四丁亥年四月七日

元禄六癸酉年十二月十二日分知

大御番戸田土佐守組

水野右衛門勝寛二男

小普請久貝因幡守組

三百石　水野吉左衛門勝宥

勝宥京東大坂の宿由ゟ系ゟ事有之

享保元申年三月廿七日四ッ谷内藤宿松平

内膳ゟ上ヶ地二百七十坪の地を屋敷に

賜る

享保六辛丑年八月廿八日拝入関門保田守支配

元文二丁巳年四月十四日死　六十二歳

宝永六丑年二月廿日

尾崎七之助信正嫡子
御先代桐之間御番

大御番戸田土佐守組 文昭院様 御書

三百石 尾崎四十郎信之
内百五十俵

正徳三巳年五月辞入 松前伊豆守組

享保三戌年七月廿六日死

宝永六丑年二月廿日

元禄十二卯年七月九日跡目

大御番　戸田土佐守組

井出平八郎惣領倅忠兵

御目見代　桐之間御番

三百俵　井出八之助　惣領

惣領ニ而平之坂の分家ニ付年々高く

享保九辰年十月九日　新御番　曽我平五郎組

宝永六丑年二月廿一日

酒依平左衛門当忌悪服

御先代桐之間御番

貞享元子年　月　日跡目

大御番戸田大炊守組二百俵酒依興右衛門当忌

当忌京大坂の節ゟ無之事候く

享保九辰年十一月十三日新御番古田頼母組

宝永六丑年四月六日

大御番戸田大作守組 二百俵 小西助右衛門正忠

二条御城御門番小西助左衛門正高惣領

改助之丞

同年同月廿二日廩米二百俵を賜る

今年八百俵となる父の俸禄を家る

正忠京大坂の宿番を勤るも

享保十乙巳年八月八日 [illegible]死

宝永六丑年四月六日

二条御城御門番ニ而松田孫左衛門　惣領

大御番戸田大作守組　二百俵　松田孫十郎

同年同月廿二日廩米二百俵を賜ふ

今年八百俵をとりつゝ作を兼る

宝永六丑年四月六日
御家光御書院番にて松風伊左衛門勝忠が所
大御番戸田土佐守組　二百俵　松風喜市郎正晨
後三百五十俵
同年同月廿二日廩米二百俵を賜ふ
今年八百俵となり御作事を承る
正晨京大坂の宮室に参る事ありて
享保六丑年六月二日宮室十となる時かけ
あきことて黄金三枚を賜ふ
享保十二年三月廿七日植村土佐守より
但よ加わりて大金御将の附歩行と

預り免
同年十二月廿五日臨時二百五十俵足之の
二百俵ハ返しする
享保十八丑年十二月十五日武蔵国入間郡
下奥富村同国高麗郡梅原村論和
検分御用として参りしき十二月三日御暇
黄金二枚時服二を賜り同月廿日御番帳を
賜り明の六日宮をとゞて御用を務め
同月十五日仰り十二日御用の事ともし
大岡越前守忠相と次御奉行と返し
する
元文四未年十二月十八日 御代官

寛保二戌年四月廿二日辞入行中間隠居又死
延享四卯年二月九日死六十三歳

宝永六丑年四月六日

新御番行本左作守組ゟ差免高井殿

大御番戸田左作守組　二百俵　石野百助広道
後五百石

同年四月廿三日広当末二百俵を賜り
今年八百俵とあハせ[?]を賜る
宝永七寅年秋坂城の請負を承り
享保元申年夏二条城の請負を承り
首尾よく相勤む
享保四亥年秋坂城の請負を承り
滞りなく相勤む

享保五子年十二月七日跡目五百石是迄の
二百俵ハ返し上る
享保六丑年二月十三日山里にて宗馬
御覧有て営中に於て時服二を賜る
同年三月　日十二日ゟ間宿直被仰付
なましとて黄金二枚を賜る
宝永七寅年三月八日宗馬御覧有て
時服二を賜る
同年夏東の宮にて弟子請
役をも勤免
享保十巳年秋坂城の諸語にて弟子
請役をと勤む

享保十三申年夏二条城の諸語にて
弟子請役をと勤む
享保十六亥年秋坂城の諸語にて弟子
請役をと勤む
享保十九寅年二月廿八日御厩入之留牧馬を勤
元文元辰年七月廿五日致仕
延享四卯年五月廿七日死七十二歳

宝永六丑年四月六日

新御番能勢市十郎組小姓御信胤惣領

大御番戸田土佐守組 二百俵 後八百俵 桐馬小源太保胤

同年同月廿三日廩米二百俵を賜り

今年八百俵となる小作事を称る

保胤京大坂の寄方ヲ承る事ニ付く

正徳五未年十二月晦日時同八百俵を定む

二百俵八要しせる

元文元辰年五月廿四日死去ニ由家

宝永六丑年四月廿日

新御番組頭申付之元在来之倉米五拾俵

大御番戸田土佐守組 二百俵 牛奥太左衛門昌穎

同年同月廿二日廩米二百俵を賜ふ

今年八百俵をとりハ御役と家ある

昌穎ハ二十六歳の家督ヲよりある

享保六丑年閏七月廿六日 〈諱名〉 從 元方御納戸

宝永六丑年四月六日

新番頭安藤淡路守組御番衆萩原昌雄嫡子

大御番戸田土佐守組　二百俵　萩原十左衛門昌詳

改　源五郎

同年同月廿三日廩米二百俵を加へ

すへて四百俵を領す

昌詳はしめ大坂の蔵奉行にて事なく

元文元年秋坂城の守衛に赴くへきよし

病ひあつく江戸にて没すといへとも病ひ

多年の事にあつかりいまた父の跡を

嗣すして郡代仕あつく二十年

元文三午年八月廿日

大御番之上構免（元禄十三年まきく 新番組のつとめた）

（新番 役）稀入杉本定右衛門死

寛保二戌年十二月二日跡目二百五十俵

其との二百俵ハ返しける

延享三寅年十二月六日致仕

延享四卯年十二月十二日替をとくりろく

幽雲斎と云

寛延三午年七月廿九日死七十二歳

宝永六丑年四月六日

新御番（[illegible]組より大御番将監春子）

大御番戸田大作守組二百俵三田喜平次将英

後二百五十俵　父　勘左衛門

同年同月廿五日廃中家督二百俵を賜る

今年八百俵をとるふ作と家る

将英弟大坂の定番の弟子ま喜く

享保十午年三月廿七日中大御番の時

山名因幡守組にて連行にて当行事るを

勤む

同年九月四日跡目二百五十俵足まして乃

二百俵八返しなさる
享保十三年三月十二日大的六本射
御鏡の射手に列して皆中なりしかハ時服
二を賜る
享保十八丑年四月廿二日御弓場始の射手に
列りし恩賜なりし明の十二日営中にて
百て黄金二枚を賜る
元文元辰年四月廿二日御弓場始の射
手に加りて時服二を賜り明の十二日
営中に百りし黄金二枚を賜る
元文元辰年十月十二日新御番北条新蔵組

宝永六丑年四月一日
大御番戸田左作守組
新御番大久保杉右衛門組より明正丑尺
二百俵 後三百俵 鈴木十右衛門數正
後吉兵衛
同年同月廿二日廣敷番二百俵を賜り
今年八百俵とのかの俸を義る
數正ハ先手坂の家來年ゝ幸命く
享保十六亥年六月十二日添目三百俵
其子の二百俵ハ返しなさる
享保十八丑年八月十二日新御番倉橋内匠組

宝永六丑年四月六日

大河内吉兵衛山城守組又七郎昌綱惣所

大河内吉六伊太作守組　二百俵　小普山主税昌建

後二百五十俵

同年四月廿三日廣敷来二百俵を賜ふ

今年八百俵をとらふの作くとあつる

昌建京大坂の宮ありて来る

正徳二辰年十二月廿六日落目二百五十俵

是とよの二百俵ハ返しある

享保四亥年十二月十日辞入酒井太田守死

享保五子年十月十七日死

宝永六己丑年四月六日

大御番戸田大作守延　二百俵　後八百石

大御番松平志摩守組十右衛門番備所
美濃部勘兵衛茂惟

同年同月廿六日廩米二百俵を賜ふ
今年八百俵とあはせ父の俸とを寄する
茂惟宝永六年大坂の番衆たり
正徳五乙未年十二月十二日遺跡八百石是との
二百俵ハ返し奉る

享保元申年四月廿八日道奉行
享保四己亥年九月廿七日一統免されて

宝永六丑年四月六日
大御番石田左衛門組
大御番頭代越中守組ゟ新三郎正道実子
二百俵 寛 千之助正信
後 新五郎
同年同月廿二日 廩米二百俵を被下
今年八 百俵を被下仰付
正信 享保大坂の御番之節小普請入り
享保四亥年十二月廿八日 父正道病死
小普請入
享保七寅年 二月七日 御番入 御書院番 酒井讃岐守組
河内守組

立組大御番酒井下総守組ゟ右同書

宝永六丑年四月二日

大御番家代越中守組又左衛門二男武蔵養子

大御番戸田土佐守組　二百俵　久留主税正之

改喜太夫

同年四月廿二日廣敷米二百俵を賜ふ

今年八百俵となりての作とならる

西之丸大坂の宮也て奉行を年しかく

享保四亥年九月廿三日父死をめつきと

あつかる科旧しられ八甚流をとわ頼

享保十三申年二月廿九日致仕　歳七十　病死

宝永六丑年四月六日

大御番戸田大作守組 二百俵 婿入 内藤勘助良寛

大御番屋代越中守組添三郎二階養子

後二百俵 改源太郎

同年同月廿二日 廩米二百俵を賜り

今年八百俵となる 父の俸ゝと兼る

良寛享大坂の宮重ゟ気多年久く

享保十二年十二月廿七日森川下総守重陶か

組より列して大御番将の時当り勝手と

替む

享保十六亥年十月十二日 源月 二百俵

先よりの二百俵ハ返しまゐらする
享保十六辛亥年十月八日於大坂城在番死二十九歳
良寛と號す大坂山中橋本寿光寺に
葬る

宝永六己丑年四月六日
新御番松平主馬組 安藤主馬支配所
大御番酒井越中守組 荻原十郎明程支配所
大御番戸田左作守組 二百俵 荻原八十郎明信
後四百俵 改 元右衛門
市郎左衛門

同年同月廿二日廩米二百俵を賜り今年八
百俵をもつての作とを家する
明信京大坂の寄番なとを勤る年に於て
享保九甲辰年十一月四日父明程が殺害候の
科にて百俵の遠流とを賜り先よりの二百俵ハ
返しまゐらする

享保十七年十月廿五日祖父丈助死去により
小普請の料多くあたへし　祖父丈助二百俵　孫明信四百俵　後遊ぶ
不預
元文二年十一月廿五日大御番組に列し
元文五年二月十二日　二条城の当番として
条より御帳目録封印役をつとむ
是より以前に思儀なし
寛保三年秋坂城の結備にまかる
延享三年二条城の結備にまかる
寛延二年二月四日釈奥…
宝暦元年十月廿八日死　五十二歳

宝永六年四月六日
大御番戸田土佐守組
大御番松平近江守組…定忠…
二百俵　後三百俵　兵部…定
同年四月廿二日廩米二百俵を賜ふ
今年六百俵…
定…大坂の当番として…
元文二年秋坂城の結備にまかる
御…
寛保三年秋坂城の結備にまかる
御金…

延享三寅年夏二条城の勤番より帰り
仮御番をつとむ
宝暦元未年四月三日家督三百俵
是よりの二百俵ハ返しまゐる
宝暦元未年七月十九日御天守番に改
宝暦五亥年九月廿七日死 六十五歳

宝永六丑年四月二日
大御番
大御番石田長作守組 二百俵 東甚五郎
但新三郎
忠民
同年同月廿三日廣家来二百俵を賜く
今年八百俵をとりしの件とする

宝永六丑年四月六日

大番吉田大膳組

大番池田帯刀組右之儀次男書之

二百俵　小野源五左衛門

浅田百石

四年四月廿三日　跡目二百俵を被下

今年八百俵ともに高の御加増被下

左衛門大坂の御蔵奉行之節勤候

享保十三申年十月三日　跡目弐百石被下

との三百俵ハ返上いたする

享保二十卯年八月廿日　甚兵衛御役

甲府勤番支配源五郎　弐年追放

一右之とゝろ色は四月十四日御番ニ出る
事を止られ九月八日免さるゝ

元文元辰年四月六日西丸御書院番頭ニ転

元文五申年六月十九日御本丸御書院番
頭の転

寛延元辰年七月四日死 年六十四才

宝永六丑年四月六日

大御番戸田左作守組

大御番酒井紀伊守組布衣改今春良子

二百俵 永田忠四郎政明

後四百俵

同年同月廿六日廩米二百俵を賜り
今年八百俵となり右の作を家る
政明ハ大坂の家ニ住り来る事久しく
享保十五年四月六日加増二百俵先との
二百俵返しける
享保八卯年二月十三日十とせの間當直
上の勤めあまりにとて黄金一枚を賜る

享保十一年秋代人として坂城子
条川て發遣し松浦出雲守
經は加ふりて驚めしに明の未年
有冒二十數ありし程後起り
勝若を以自殺せんとせしに底
淺くして閑東にわたされ急て
傍妻子ま取し同姓市十郎政智と
云ハ川て七月十一日居宅に令させける
享保十二未年八月三日隠居
享保十三申年七月廿六日死

宝永六丑年四月六日
中入細氏仙波源右衛門年種嫡子
大御番戸田大炊守組二百俵 仙波源右衛門種昌
同年四月廿二日廩米二百俵を賜り
今年ハ百俵とす其の余ハ取る
種昌ハ某の家事ゆゑ
正徳五未年十一月十六日 依病 払方御納戸

宝永六丑年四月六日

大御書戸田因幡守殿　二百俵　青木又四郎義長

大坂御金奉行青木佐信寿治養子

後三百俵

同年四月廿二日廩米二百俵を賜ふ

今年八百俵とりの作を務る

義長京大坂の登儀にて参る事なく

正徳元卯年十二月四日増二百俵宛との

二百俵ハ返しをする

享保九辰年十二月十五日新御書宮崎七郎右衛門殿

宝永六丑年十月廿九日

松平淡路守家来　義[illegible]子

元禄十五午年十二月廿八日於桜田御門

大御番戸田土佐守組

西丸松平[illegible]同御番

元桜田屋　召抱　松平助左衛門長

正長　実ハ松平淡路守家来子也

享保九辰年十月九日新御番宮崎七郎右衛門組

宝永六丑年十一月廿九日

延宝四辰年七月於桜田御目見
三百俵之内二百俵七俵以下

大御番 戸田大作 弟 組 元桜田蔵 二百石七俵 当切 三丑年 罷處

小田切次郎右衛門四男 甚兵衛所

西丸 焼失之節御書

罷處 京大坂之節 御用ニ付 年々 勤之

享保十一年 月 日 寄合入 速水武部加 死

享保十四酉年十二月三日 致仕

元文二巳年 十一月三日 死 七十六歳

宝永六丑年十月廿九日

元禄二己巳年十二月晦日桜田館出生人　坂部伊右衛門宗房二男
西丸御広敷向御書
大御番戸田土佐守組　元桜田屋敷　二百俵　坂部新十郎信恭
改忠右衛門

信恭事大坂の陣之節父兵衛事戦く
享保八卯年三月十二日十三人之間宿直
上の勢めかすも見とて黄金一枚を賜る

元文二巳年七月廿三日死七十一歳

寛永六丑年十月廿九日　竹川監物信正卒

寛永二酉年十二月廿二日御用　西丸様出入御書

大御番戸田土佐守組　元禄出入御書　二番目　竹川監物秀盛

四番目御役　内記

秀盛弟大坂の役之陣ニ出ル事あり

享保十六亥年二月十二日　竹川大学書之記

寛保二戌年三月十三日死

宝永六丑年十月五日

元禄十五午年十二月十二日桜田御殿御番組　御先手戸田定長組
宝永三戌年十二月　日　同日　再勤御台所御書

大御番戸田大隅守組　元桜田御殿　三百石　渡辺弥左衛門

宝永七寅年夏二ノ丸城ノ番衆に被仰付

正徳元卯年六月二日死　三十九歳

宝永六丑年十月廿九日

元禄元辰年三月九日桜田ニ而召出

永井出羽守二番組

西丸焼火之間御番

大御番戸田土佐守組　二百俵　永井九右衛門武生

正徳元卯年七月二日跡入大久保肥前守組

享保四亥年八月二日為伊丹左京亮組死

同年十月廿六日死　享年五十歳

宝永六丑年十月廿九日
元禄四未年七月廿六日誕生
宝永十年大屋ノ時ゟ人数ニ成
元禄田備
西丸御徒大ハら御番
大御番戸田土佐守組 二百俵 宝永七寅年郎時忠
時忠之家大坂の富商ナりよ来る
享保元申年三月廿一日いまうく居郭
なりけきこ之浅井忠八郎ゟ上ケ地拝領
今井かゝく三百坪の地を賜る
享保元申年四月朔日死

宝永六丑年十一月廿九日

元禄十五寅年　月　日於桜田御門

大御番元由布作十組　元桜田御廣

酒井市左衛門英政養子
西尾惣大夫同御番

二百俵　酒井治左衛門高政
改八郎左衛門

高政元大坂の御番ニ而子無之事ニ居候

寛保二戌年四月十四日老衰隠居家督今二枚入大番忠兵衛相死

宝暦三酉年三月廿八日死

国立公文書館
National Archives of Japan